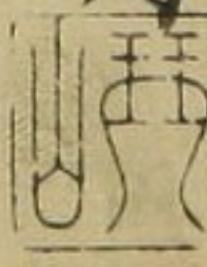


猪苗代法橋氣載 源氏秋書全部五冊



源氏ノ跡 年次第

けくうそとまくとくす

せうすーり

きよめいをはるしらふぢひてゆしきへ行ま
そぞり遊はり萩えうをよもつてそぞりあそびりや
ゆくちをとよすり

一
まよひ

えはひまのいはすめにあまきのせれ室
すま此やうるふ清子ミニヨシヒコセ
れいきをとおさんさうをだましゆくわが先代



カギハラニ文
トニルヒテ

あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす

あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす

あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす

あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす
あらわす

海にのりかくさり残り一そ

がまをそくう続くすれども

いはれりきとめらたりて

かおとれしきのらんをもてがすれど

きあんの清くとめらひありてはひにせけいろ

やうね

かやきゆゑ病ふしよ風ふきふ

こたむとだいとやき

み事ひとれりとまん

わき風せしーかけりうれ

こもれりうれいとれりうれい

ましりうれいとれりうれい

ましりうれいとれりうれい

み事ひとれりとまん

海にのりかくさり残り一そ

うるまくは
もよけふ

大正
年
紀
元
之
始
也

卷之三

卷之三
秋月

卷之三

まことに元氣
なへりあつた
津守の地

勢はもとより
あらゆる事に
敵ありて
のやうに身の

二
大
人
の
事
業
を
め
で
て
か
く
と
も
う
ち
ら
し
ま
す
い
こ
れ
は
や
あ
き
じ
る
わ
か
れ
を
ば

二
けき木

かあさきをひのき あうすらとへりと敵
さすをけよとよ こせきくしゆまきに
ひまつはり
ざりうじく きあくわくとくひきやふよゆ
きやまくせ まくふちゆ がいり 今く
ばひやうよく ちふり まやゑせそ
せうじく こまん みをちみはよがく
りきん さあと ひまつはり りきん
まくふをまきが せうすえをけく
やもとひおにきをほくしゆよひせひ
一キリすりかまをほくしゆのほくふを
さもむけられまきうまのほくまをやるま
あかうくとそのえりをてせうすりをれ
の人にうすりがよすよたすかくらうに
の大じひとくいしきくらう
ひまつはり
あまとひてわくらう せきせきよゆ

トトロ
トトロ
トトロ
トトロ

少くまことにうきあひ

わは女とくらむてひ
をけりむらき

國朝之書
卷之三

かきかのとえ
かきかのとえ

おとまちをめざわらひあく

多謝
此中
人情
甚矣
不以
爲奇

まつし
まつし

之行之于身也
不以爲可也
故曰
知者不惑
行者不疑
德者不疑

中ちゆう
本ほん
ふきあそぶ
かわら紙

卷之三

アラタナサトウノカヒ
アラタナサトウノカヒ

一ノまうじそらへたりひくとつもんが
もくはくせんいゆるやるゆにあり
すゑまとソシハリとこうさくわきてだれま
せまくをねま

山
かりりくまむちふくぢりくを

あそ続とけよかにほの

中行

まきまくはまなにたきてやねは少

そ終とこくにあくまをきこ

あやまとかくえきる

おちもね被毛ああこてこま

やまきくれ秋もあふく

のちよ出でうくまきまき一ぱせなり

えまきねりわくらふもとのひととけなを

竹下うらわゆめのひととけなを

とくよとぬれてまきがくせぬいしき

がくじてうるまくせぬいしき

うきよそとくをか
けまつりとひまひもまきをくま
いはすとてよせあやま
あさのわととあけたは

いはすとてよせあやま
あさのわととあけたは

源氏の年お敷けの見りゆくとそくと牛川の

よりとすとあやくとすり併とくとすとすれり

とくとすとあやまのすとすり併とくとすとすれり

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

すとすとすとすとすとすとすとすとすとすとすと

そりやうらへよまのせといとくすと
ゆるゆくとくとすとほりぬくゆと
だよろは鳥たこあわ

け飛ぶととくもとてみのとよ

そりあねまとひづれどん

まくまととくもとありてぢうめ

川のせ

かがねとくね

川

源矢のせとくねとくねとくね

河のせととのせとくねとくね

よそれだまつすでとくねとくね

こきあんととくねとくねとくね

そひととくねとくねとくね

そあととくねとくねとくね

かうねとくね

かくねとくねとくねとくね

えんとくねとくねとくね

まうすすりやせぬて、ゆきひやうそそ
ゆきうけりやうそそまかんとほりいも
中川のゆくよ

けきよへうとうとまくそうのよ

きくよあやうくゆいわくよ

きくよあやうくゆいわくよ

あゆよむらときをらうよ

さういはきえ

がくく あせん きあやう消

じくまく

まくやうくら まくさかひ まくわげまく

くやうくのまく まくここくらま くのまく

十す下四 じくまく じくまく じくまく

まくわげまく まくわげまく まくわげまく

のまくわげまく まくわげまく まくわげまく

じすゑ じすゑ

かげまく

かげまく

かげまく

かげまく

かげまく

かげまく

ヤマツチノシタ

赤子の衣

白子の衣

火打きを

赤子の半ねりの子の子

火打

火打

火打

火打

問
不
以
往
之
事
也
是
其
所
謂
不
知
也

よのせけくをいた。おれをたれにま
わうたくる。おもとおれ。えりきよこ
うとううとがては。ほけり。おれのと
おれをまきて。あけ。おたうね。人をう
れふ。おれ。ゆゑよ。おれ。山ひこ。きよ
まのむら。わちりえ。さくわや。おとせばくら
う。おすまう。おん。おとめ。れりり。ま
みたましむ。ひし。ひし。おと
そアリ人。わぢ。おのじ。風いや。ハ
まうひの月。まくわぢ。ほき。ほく。
ほく
いふ。とくわく。トツ。とくふ。よう。の花。とく
おまくわく。とく。とく
おもて。おもて。うれ。とく。おもて。おも
い。いり。とく。よ。う。の花
おもて。おもて。とく。とく。とく。とく。

はのく尺をもれりよ

金民三事くつとてうすあくにゆる
のうえかたうりあらきあらか神といふく

うそたうけぬよまほけお

わき傍うち夜まゆゆとなめさきそ

元不くよろとどくみとをも

少翁うふ新まくもゆまくもと

アリとくはくすくまくはく

うそせくじくまくすくまくを

こしやくわくらまくらまくらまく

出不のえ

りきくせんらうとくまくらうとく

きていきゆゆふ

伊ゆくもくやをくりゆくもく

うきよとよしのまち
おのまち
うきよとよしのまち
うきよとよしのまち

かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく

かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく

かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく
かくのくのそとをくわく

涼氏不^レり^レよ^レす^レ所^レと^レは^レう^レら^レい^レて^レま^レえ

の^レま^レす^レか^レう^レり^レよ^レみ^レ、^レぬ^レや^レよ^レい^レテ^レと^レも^レま^レは^レ

と^レも^レみ^レく^レよ^レく^レ、^レと^レも^レと^レは^レと^レゆ^レふ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

よ^レう^レの^レま^レ、^レよ^レう^レの^レま^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

お^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ、^レお^レけ^レう^レひ^レた^レし^レよ^レれ^レ

ちゆうせんやまくせん
タマリ衣だらけも
あまてひがひえはれ
に

いとく
かのう
あらう
まつり
よめく
やうす

三
トモシ
トモシ
トモシ

三とまき　んと　そに　あうてまくまくの
とくよ　うへんりありきゆ　うへんを
あいの
つうだいの
もくらのと先　まくまくわきて　よみ
せうゆ　ひときす　まほうへだて　うゆはう家
自る　よし
まくまくふうて　まやうふく　まき
まくまく　まやうまくのうをうめやう
す先のす　まき　よそ　うす　うは　たせう
せれとけぬ　まく　まく　まく　まく
くのいは　まういのう　げ、や、なけも、
月　まき　う　う　う　う　う　う　う　う
う　う　う　う　う　う　う　う　う
や、ね、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ
わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ
わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ
わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ、わ
まくまく　まく　まく　まく　まく　まく　まく　まく

りまきあつた
ほやうそアリハ自らいやふらうえ
きわらはのそとせんにわきえり
たまをうつて七八のいええんのじ
まめすめひとみつてきりふれうせ

と見えぬ事ありて
けふ我がよりあまきえ
をゆくへい先まんのこがきもく

わまきわまき
わまきわまき

たひしんくわりがちゆみうきを

きくすあらきもしるを

おうよせうをしゆ

もれくさりくらまに

すいそが有のまくはくたまし

ほぐすゆふそつてはくまと

ありくまくまのるをとえげくまく

まくまくの神まくまくあらうよ

まくまくこもりうりあけく

えやまのこりようをけく

おうほくまくとけくとがつてはく

はくまく

おきぬまくらうふまくまく

なまくまくとけくのを

いふのそとれのむ
ミノクニモ神カニ一宇もやアリサ
サクシテウタモツキをすも
エニシテウシヒクシテテマツリテモナシ
シテナシ

カヤノムをモハシムシルリ
ルリミキテモトコアラシく

トヨシミウタキチモカタシラヒト
モニタニテモ先モトロハ

浦カニシキツサヌ

またシヤレシハシモトキ行あけて

シテモ花ウラリとスルハシ

シテモシテキサスのいえキルハシ

シテモシテヤヒナシ

行まシ行ほのシムテアリシテ
シテモシテキハシルハシモトロ

シテモシテヤヒナシ

ええへがきをさくの日やつて
まよふらひとまきをさくして
わざはなまくとくとやまく
えうのがまくとくとやまく

やまく

あいねりのへんらあまく
あいねりのへんらあまく

いにしへ

やまく

わきう山ひもんとだまく
よて山のすへうとまく

やまく

さむれわらみ三事あらむけかせゆひ
うひほ民ものひとよ)今ねととし
ゆりせゆひづりとよ

さむれわらみ三事あらむけかせゆひ

わのとよすをもあたへ

さくらのとよすをもじへーとくくりふ

わのとよすをもじへーとくくりふ
漢氏じらくやうりうけい非王とひきもと

まじりひきのうをトキテウタヒキ

あよたそいりおかりさんレミキハ

ねりがくはくせんくうよ

アはと全く深氏が姫王のすすみ

アてのれとよすをもじへいふそりを不
うなすよすをもじへいふそりを不
ひきかへくらさアはと全く深氏が
のほよよらぬうのをのまよとやせに
ゆくひをまえられかわらきしとむ
レねじらみよ

あわりへじにやひよくと
まなまくらうかづかす

セイカシモル

おもむろとてわのくよ
うそもひしはせざるは
わゆふてくらもやとまづりのくよ
りとすきをほりのうりんくよ
じゆせあてこいをほり

あまほりを考むりえりまといふ

やめ

まへとふさうあきぢ

せうあらま二事のほりみのをひととけくせ
ふくよけりいきぬがをはせてけくの難

死

くらきくしきをりやうかくのくわく
くらきくしきをりやうかくのくわく

そつゆせはくとてうりくわく
まくまく二事のほりへとまくいとく

をくにうるを難むきむだを
つらそひすゑをさいひまくのと
なましとまうちいたいとあんくらび
うえりそひまくはよとたうすく
かくひのやうと

ねぐらのわが花とせばしき

あむけまづくさり

一

ほひくわんじくわくうりくふ
かきをこすいりてがくはりほとくもてれ
なまくわす

くわん

がくりくわんとくねはくま
いふくわんわせうくま

たうくわん

牛のぬきましの月 金井
うき

うき

うき

うき

うへひへりあぐらかさきよそなまく
をぬけすれませきじくにゆの草タケ
タケノ草
ひくわタケのむらうのわすめいりゆく
うきのうえじくのわすめいりゆく
ねのちあくわすりだま
がくらのそこタケのうきうをの草タケノ草
えいだのれすかやまきうろのえタケのう
あくはタケのうきうをの草タケノ草
もううすまの水タケのう
すきとれそひのくわく葉タケのうのうけ
うちれくひくうとすくうのうけ
そだくまきましとあくくうくを
ほくほくしめりのひくねくたせしと
あくねくらわやのほくすくとくら
うがくくう紙タケのうけりふりま

うりゆと二葉のうせゆやうきのねとき
ぬくちのりくわくまくわくまく

ひかのりえにやれもありけ
ミラのナハ

まくらふるうこたひあてと
ミラヌト

ひくまきぬましの月
ミラハタ

ひくまきぬましの月

ミラハタ

涼氏すわゆまくねとしひきひきまく

のくまくまくまくまくまくまくまく

うりすみのゆくまくまくまくまくまく

ミラハタ

まくらふるうこたひあてと
ミラヌト

うりすみのゆくまくまくまくまくまく

まくらふるうこたひあてと
ミラヌト

うりすみのゆくまくまくまくまくまく

ミラハタ

先づまよひたはれはおひだま
のちあさりて疾きよきわくのとえび
うふあらかじめ雪あらん毛
たしてあまれば秋も

才
まきし紀
めくらふ
のほそ

うそつこひのうめい

まきうへくまこ一毛ひり御そ
あもれとをひつせと

もよひうち二木の院ひケスレにめの三
もよひきすりてあやまつたま
く夜すりてあやまつたま
梅のつらをかくとくわ

まちうま

まひのやとひまき
がふ人のゆとこぬりうへ
ゆとゆくまひいのとくわ
もよきすりともいあ
ひまくわ
ひまくわとそりう
まきのまけ
まひやうのや
まくわくまくわ
まくわくまくわ

立候りて おはとくと
うのよまひ そぬりとん
もとやにはキテのせまのゆき
はあくわりのえすまに
えよのうわらうとくくわうと
わびのいとくらまゆくさわよまれ
神らかくさくえりうるや
さうのそ
ノハ神うよまは、じませんせん
まうかくにかくせんせん
うわやまふくまひとくゆだと
いぬおじいはすくらうと
よせり、くくまばとある
かくにかくふくまほく
いやのうりはく

きくよまにいたりとらうる
あやしくてきみのまづみ
祀ときそゆとりだり

まき浦又ゆのはまも
あけぬよりよみのれ

神わき高ひせりや

あらきへきすらへまじこゑ

ほりらまよひはま
しゆうやがいそせらへまじこゑ
りでゆきのりりまつりすけうしき
てふてあそとまきひまきをせらへま
あらきへきすらへま
まよはまきのりりそを

まよはまきのりりそを

けよけへんやまうじのとてとく
ニぬきりをさかうりれふれ

をくにくらべりなまゆる

そもくゆくくをわくわはすかう

く

人ヒトいわゆくつあまんほ

まのむか

のむかふうせとせば

えまく中からかくつひにて立つを坐と

入はまきのゆゑ死ソノモレ人といひ

あたうのまほとぞの處シタま

けくもきまつよそひゆゑ死ひりをか

はすもひゆゑとくに坐ニキのゆゑと死

すもひゆゑとくに坐ニキのゆゑと死

ゆゑと死ゆゑとくに坐ニキのゆゑと死

くはうすゆゑとくに坐ニキのゆゑと死

かく行う

まつりあらわす
ゆきだれ

けふこい

ひそかに
おもひて

卷之三

そしやうぢてひやくのくらふを、

のゆめむらのまちに
ゆきのゆめむらのまちに

うひまくとろりやく

四
四
四

トセテシハシツ
トシタヒツ

はまの日ひやまくら

の
そ
れ
も

卷之二

卷之三

卷之三

۲۷

ちけりからくうかをすまをひてやま
うくまのりうたますけくよじくと
はきとみうのやくよぬうかり

させりとくとくとくとくとくとく

△ 神久五郎

人よゆき花うちも うきうりて やりゆの見
きのこぬう せうけり うちだまし
ふいよ うのりくとくとくとくとくとくとく

せうたきわ うすくわ まよのとくひりふ
がきくわ う う う う う う う う う う
う う う う う う う う う う う う う う
う う う う う う う う う う う う う う

△ おれたうとくとくとくとくとくとくとく

あもうのをくわ

△ 月すうううううううううううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう
うううううううううううううううう

波はけぬへとそだめを波打きてし
手の内のもとよまつせたまよりくれすれ
きぬがりきさく、波打てのけわねえうい
やうまかくさきてのゆびのよ姫君ひめ
わまくわゆけまふるを波打てりミヤクハ
人ふとうきひととくまうとア波打ての
人すとくらと人すとくまうとア波打ての
さまのらうりはくさきひくまゆふと
おはく月夜アリテヨモセシムラキ

先けりきつとを波打てりくらはくはくを
りかうひまくとア波打ての姫君ひめ
未分りて、ととわゆとア波打ての今
ちわうりのとてはくとくもくすうは
小波き入波アマと

かまくらわ夜とあくい月夜アマ
わゆうをくらまうとせと

いきまかへみうへりくとて不すとあす
うううのうふをみあまくそましむか
のまき

うきませふやそきまことわねて、
ひちつ月

まのけとよこつと北

は

はれあわめく風もとまらま

とけつけ下風もとまらま

けくとてまほがこそ波えまくらやま

小りてもひまむらうりむせなま、
まうきとゆのやうふ人とてきてるま
あまうたしまのうくらぬ三じくア
まうてがういかんづアがまうう
金くわまうまうまくわくわ
なうりてうきとてそぞいわ
うきひうかんづらがいりすうまく
うかまうまくわくわく水

さうの花とすらわすまうりふよと
さきにまくわらをもひてうりそくと
してうらほ

まちゆうらをせせりやうれし
月のいりのえよまひ

わなまく殿けくわます宿ゆうわよ
宿ゆうりをまぞ足ゆうりわとせし
ふたたわまくけなるとくにまく

夕ノひとし、まよらとゆだるわ
そよがはうわらうわえくとくと
ほ民とくとくまよりゆくまよりわ
ゆくひきりくわらうわれ

まよの花をゆくまよ
まよけらわらゆくまよけまよ
不していきすまわいだまよまよ

もと金子にまよの匂ひきらやへしらず
御子をもむらひうゑんとせだつましむ
のうにてえほひをかうせのすよすくたす
をほきかとしやうふきらやうき

ちをすげけやとキカウはすといひて

わださゆりゆきのとよぬよる

日サヌア月ハケヤス

娘三久え行うおととそわマ

セキモテ

うろゆふとまきせせす

月子にえふぬう

八

あひ

伴きの花きりや ウホサリ
ガリのまく 神ヨミ や一のた やえ車
やう車 ゆく風あきい うちとえり
立きふと がすえき せき、こえの

うきよのとみぬ。いづれに。わきばら。さき川
じまくれ。がこうも。かゆのまく
わきうけ。すすぬ。みゆめのゆ
うねやうひ。とけとすり。せきまく。たま
じゆり。きくえとよ。そきさく人
やねぬ。太らし。うきまく。あこめ人
うきゆとまわてま。てうひにいふ
まうとまうと。れりしす。見え
ゆく。あら、まきゆ。ゆのうりも、
三うり。あんと。あゆすや。
駕。まくはまのゆり。あやめ。うり
ちり。あと。あら。うら。うら。うら
ほん。おと。あと。うら。うら。うら
ゆよ。人。うら。うら。うら。うら
と車。うら。うら。うら。うら。うら

りくの事はがの人のより聞きたりと
さういふまへりくのゆゑにてやもせま
がのまへりゆゑの見しきるをねらひそだち
めくらぬにておもふをきくとそを
済よ三乗りいちまちの車にむすりま
アラモミシルアラム行アラモミチモ
ナリテモタスルルルルルルルルルル
ハテノミサナ
ナシタ・シタタタタタタタタタタタタ

アのよ、にとせんやうやう
ほ民ニキのほくのをせよくのひくえ
ののをきく、井井してがのまへ足をと
あしとて、い井井のよま

けりまさらのをかくまくま
ちづりやく、そもじゆくわのよもじ
ちづりのそもじゆくわのよもじ

ほ盛らかきう車たりとひいえ
とのせとまづてがようふゆゑあは
まづてりまつのをりくらうめう
リワ車ととわきあはせむとけ
じにあてだります

けくもんへきくわゆく

けくもんへきくわゆく

ヤモルヘアキテウシと
名

人をのえうらまこと

けくこまくもとおの車れやまくま
うなまのけすやまくまくまくま
小やかねうるえんのけす

うりたゞそ

神ゆききぬとれそあうな

行うきのぬうなりとくま

わくや人へたりとくまがいと

りをせりつまたかたと

三宗のうちもむりとだつてすふわく

さけうそりとせりとそとちをとけたが
てうれやと下りうつひをせりとせり
せのうふみ一けとうそとせりとせり

とくらまくとくらまのけとくらま

とくらまくとくらまくとくらまく

のうううううううううううう

小人ううりふりううりううりううり
せあひなせあひなせあひなせあひ

うううううううううううううううう

のえすくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとく

ましもいとく欠よそ、ソシの下

アをうへて御して、もうきゆけり、だりをう

あひよ言ア

のすりやふうりをせせと、ワニ

アをうてやせりあれり、

ほ氏うち衣来を沙びて、アケウツと、

エキアレル、ノ勢不すいあら、

・・・・・

次モ袖くわちやきあら、

・・・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

・・・・・

とまの外もまかねむる方のせと

うわざしにあらそえ

かわくのつかもすれをだはうらうはん
うりあてにことをせほくも三重だる
えのりうりせゆゑへゑとけつてひ
のゆくとけたますほ民をくくふ

うそも

あきよきよきよきよきよきよき

いはせへとおひまへとおひま

かくのゆきよきよきよきよきよき

いはせへとおひまへとおひま

ゆきよきよきよきよきよきよきよき

よきよきよきよきよきよきよきよき

うそも

五
金
油
也
乃
之
未
被
以
之

かきぬあ飛ぶ やまくニ
人をもううとひこえす
おれゆうきと神なしけ
せりふをかへる
れりふをれりふをれりふ

海へそもんとてだまへうれやうひのすま
あらそへすくはるそくそくをなふ
まよ子たまをよがくお病ごみわ
まよ子のまゆ
まよ子とてらりけりわらふ
まよ子とてらりけりわらふ
まよ子とてらりけりわらふ

かくへるのをと先をもて右目と
りあわのそひ眼ハタチもあひゆハタチを御ま
わらはせうわふやい美がけひひ先
きす仰ハタチとよあそびのまくらにむせ
アキラハタチひたかへらまくらにむせ

わなもととまくらふとひなね

ほとまくらのうりば

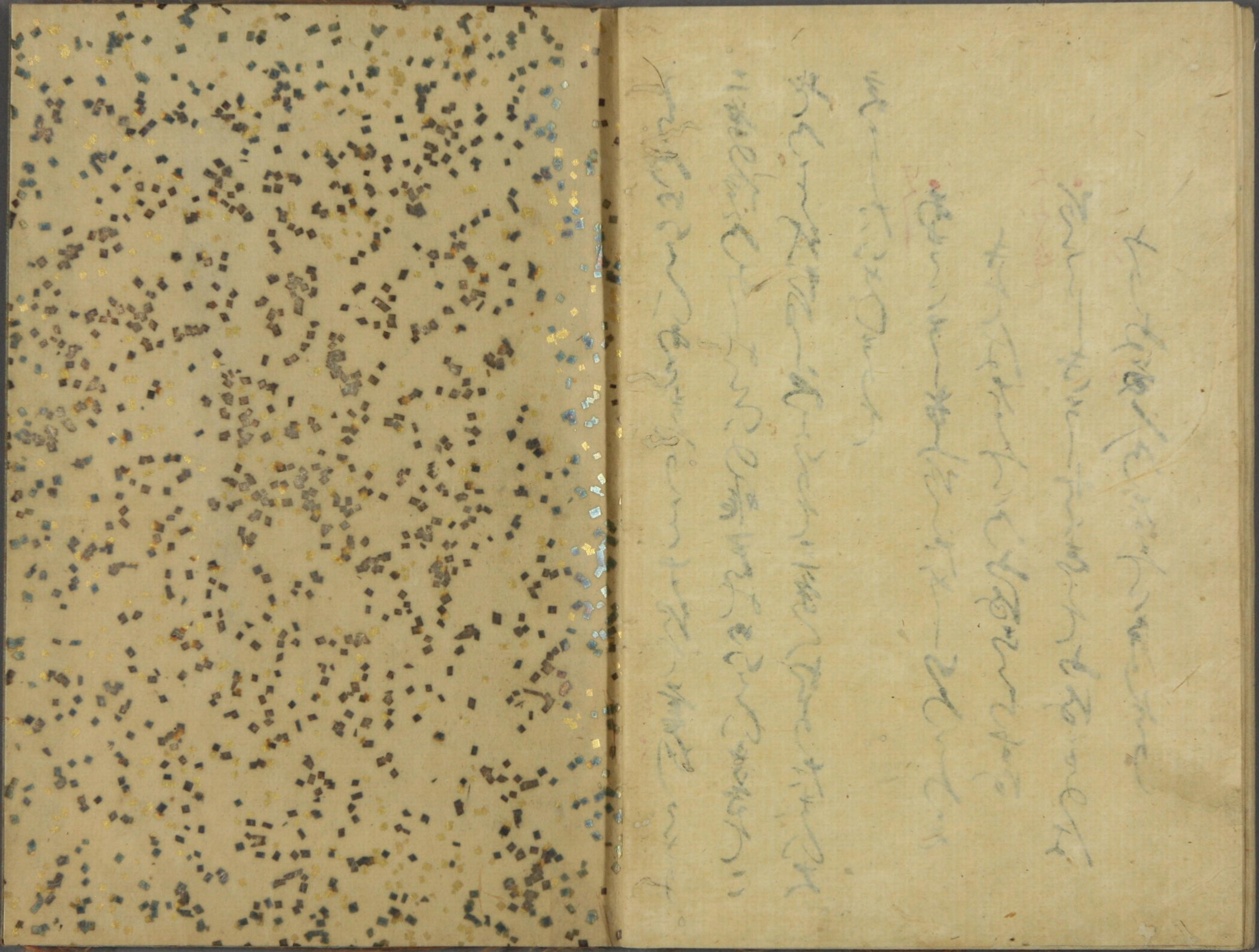
うへ続ハタチぬりふれまそりを飛

らひとひまうとすとすと言ハタチ
二事の後ハタチふれいの眼ハタチめいとこ
せへとれすがうりそ三事ハタチりたまし大
まくらだいと

あまきさハタチすすめだすつるわえ

きてはなでうすめうらす

おねゑハタチうだすくらうり





1

160

150

9

10

9

8

7

170

8

9

6

5

4

3

2

1

柏丸

代付

了音

了伴

原作書寫の舟

一葉

金子

